



園長便りひがし

令和7年1月6日
宮崎ひがし幼稚園
文責園長 花宮 伸利

あけましておめでとうございます

今年は巳年。巳（へび）が冬眠から目覚め地上に這い出すことから、冬に根をはった草木が芽を出し「新しい種子が生まれる」という意味があると言われています。このようなことから巳年は、力を蓄えていたものが芽を出す「起点」の年、脱皮する特性と併せ「再生と誕生」を意味する年と言われています。

職員一同、子ども達のために頑張りますので、今年もどうぞよろしく申し上げます。

給食試食会

給食試食会が行われました。一昔前までは仕出し屋さんにお弁当を頼んだり、パン屋さんを持ってきていただいたりしていましたが、5年ほど前から給食室が設置され、完全自園給食になりました。

現在、子ども達は炊き立てのご飯と温かいみそ汁を毎日食べれるようになっていきます。試食会のメニューは、雑穀ご飯、タンドリーチキン、コールスローサラダ、南瓜とほうれん草のスープ、オレンジ、牛乳でした。



お家では好き嫌いが多い子ども達も幼稚園では周りのみんなが食べることで挑戦して食べられる子が増えています。参加者からも豆ごはんが食べれるようになりましたとか好き嫌いが少しずつ減ってきていますというご意見がたくさん聞かれました。

「育てたように子は育つ」 相田みつを

これは、相田みつをさんの言葉ですが、親や教師の誰もがこの言葉の前では、真摯な気持ちになるのではないかと思います。「どうして？なぜ？こんなはずじゃなかった・・・」と子どもの言動に疑問を抱くとき、相田さんの言葉は、子どものせいにしていく自分に「渴！」を入れてくれます。

私も大学生の娘がいますが、これまで帰宅も遅かったこともあり、自分の子育てを振り返ると反省することばかりです。会話が弾んでいると思いきや、急に不機嫌になったり、くちごたえをしたり、そうかと思うとニコニコと学校の話を始めたり・・・。

子ども一人一人の個性を伸ばしながら、自立した人間に育てるために、親や教師は常に自分の生き方や考え方の良いところと悪いところがどちらも子どもに反映されていくのだということ肝に銘じておかねばなりません。子どもは親が育てたように育っていきます。そして、幼稚園でも担当の教師が取り組んだように子どもは育っていくのです。親であれ、教師であれ、子どもを育てるには、粘り強さが必要です。子育ては大変ですが、喜びも大きいです。

最後に、ある言葉を紹介します。

「これでもかこれでもか」と頑張って駄目で、「これでもかこれでもか」と踏ん張って、さらに、「これでもかこれでもか」と努力して、あ～やっぱ駄目かとあきらめた時、始めの「これでもか」が効果を表してくるのです。

（作者不詳） 子育ても仕事もお互い頑張っていきたいですね。

